

復興と平和願う調べ

スウェーデン出身の世界的チェリスト、パブロ・カザルスの弟子として知られるチェリスト平井丈一朗さんらのコンサート「IBC岩手放送主催は15日、盛岡市県民会館で開かれた。震災復興や世界平和への祈りが込められたメロディが、聴衆約200人の心を行った。



息の合ったハーモニを響かせるチェリスト平井丈一朗さんと次男のピアノ上元さん

チェリスト・平井丈一朗さん 盛岡で演奏会

コンサートは「明日ありと」をテーマに平井丈一朗が楽器カザルスに捧げる演奏会と題して開かれた。

平井さんの長男秀明さんの指揮で、盛岡二高音楽部の生徒が、平井さんの父康三郎(へ作曲)ふん作曲「砂の手守歌」被災地への祈りと供たちの幸せな未来を願って、「盛岡市出身の歌人大岡民子の短歌に平井さんが曲をつけた「きりかき」(「明日ありと」)などを、清らかな歌面で歌った。

平井さんは、カザルス直伝のバツハ「無伴奏チェロ組曲第一番」に続き、次男元善さん(じゅん)とのベートーベン「チェロソナタ第三番」、平井さん「初月のアリア」、カザルス「鳥の歌」などを演奏。息の合ったハーモニを響かせた。

被災者の痛み感じ演奏

インタビュー

震災復興チャリティーコンサートのために本県を訪れた平井丈一朗さんに、盛岡パブロ・カザルスや音楽に込める思いなどを聞いた。

—コンサートの趣旨や本県との関係は。

平井 父康三郎さんと、私(平井 秀明)さん、元善さんと3世代の音楽を入れた。「今や」なのは、父が石川啄木の歌に1935(昭和10)年、曲を付けた。前浪のコンサートに東京から招かれた父へ、出発する直前に主催者から「今や」の曲に作



「楽譜は設計図のようなもの。演奏家は楽譜から作曲者の魂を読み取らなければならない」と語る平井丈一朗さん。盛岡市内のホテル

カザルスに本当の音楽学ぶ

曲してほしい、と依頼があった。夜行列車の車内インの貧しい人たちのため作曲し、翌日演奏した。このコンサート企画して「私が一番最初に盛岡たりもした。そういうことでリアルを、たのしみを実践した。平和を、50年近く前、また、盛岡。まずは自分の近い家族や市出身の歌人大岡民子さん、周囲の人のことをん短歌が私が作曲し大事にする」と平井さん。歌碑の除幕式は盛岡二高の生徒が、岩手との指揮で歌った。岩手との指揮は深い。

—恩師カザルスについて教えてください。

平井 「国連で演奏した時の演奏は有名で、今でも世界中の人がお手本にする。私も、この曲を演奏するようになった。その人間性が、時は恩師カザルスの気持音楽に出る。音楽はテクニクがなければならぬ。東日本震災後、被災地への思いを込めた「初月のアリア」を作った。

—「練習にいられた方のかザルスの音楽を通じ、平和を願う運動。鎮魂と、精神的なダメージを受けた心を和らげるように、とい

—当時スウェーデンが独裁政權で、先生も亡命した。うけを込めた。この曲長年フランスにいて後に、は犠牲になられた方、大フレトリコへ行ったり、たのしみを受けられた方その際に難民をたてた。あなたの痛みを感じながら助けた。世界的に成功したら、全身を盡して演奏して相当な資産もあったらしい。